責任編集：濱口　栄
学校法人 日本写真映像専門学校
〒546-0023　大阪市東住吉区矢田 1-5-9
www.shasen.ac.jp

THE 2017 SHASEN NEWS 1月号

「楽しいから笑うのではない。笑うから楽しいのだ」と、誰かが言った。石見ファミリーは「愛」という魔法のけむりに包まれていつも笑顔。このあいだも河川敷ではダンボール板で草すべり。子どもたちも大騒ぎで大笑い。

石見　雅 × 真美子 × 水明 × まい × きみえ

UP! SPECIAL HAPPY is FAMILY vol.29

UP! SPECIAL HAPPY is FAMILY

庭で育てているバジルは今夜の食卓で。

祖母が 50 年も守ってきた和風の庭に家族みんなでハーブを植えたり土いじりを楽しんだり。雅さんは庭木の担当。私は草木の植え付け。長男はダンゴムシとミミズ担当

ご主人の石見雅さん（34）は２００３年の写真学科卒業生。奥様の真美子さん（41）は写専の教員を退職されたのが２００６年。二人は先生と学生の関係でした。教室で出会い、大切に愛を育み２０１１年の１１月に神戸で感動的な挙式。写専時代の一番の思い出は？「２年次在学中の体育祭での百足競走が、最高に印象に残っています」と笑う雅さん。真美子さんの思い出は「退職時です。そうですね、卒業式でした。受け持った卒業生たちがサプライズでみんな集まってくれたことです」思い起こせば今でも瞳が潤むとか。お互いに写専で学んだこと、見たこと、感じたことをエネルギーに生活を営んでいるようだ。

「現在は服飾の会社でマネージャーをしています。写専で学んだ視覚表現力、事務能力、海外生活で揉まれたコミュニケーション能力はずいぶん役に立っています。神戸と東京の往復で忙しい毎日です」と雅さん。笑顔を見せながら、隣から真美子さんが「あまり忙しいのも、どうでしょうか。家族が一緒に過ごせる時間が貴重で大切なんです。いつ辞めてもいいですよ」（笑）家族が共に触れ合う、語り合う。「みんなで食べる食事は皿一枚でも宴会だ」これが人にとって最高のご馳走であり、贅沢なひと時なのだろう。そこに感動が生まれ、愛を確かめることができる。そんな気持ちを家族みんなで共有しているからこそ、石見ファミリーには笑顔が溢れているのだろう。

長男（水明：4）が笑う。長女（まい：1）がそれを見て微笑む。同じ目線から真美子さんが笑顔で話しかける。近づいて雅さんが大笑いのウズを巻き起こす。少し向こうでおばあちゃん（きみえ：87）のシワが増える。写専の卒業生と元先生は、これから築き上げる新しいファミリーの教科書を作ってくれている。（は）